

札幌市立 あつべつきた幼稚園

〒004-0073

厚別区厚別北 3 条 3 丁目15番 3 号

【厚別北小学校との連携】～年長児と 5 年生との交流・連携～

年度初めに年間を通した交流の打合せをし、交流の様子からその都度連絡を取り合うようにした。

① 5 年生の事前観察（7/6）幼稚園に来園

園児はカリンズの実を採る、水で開放的に遊ぶなどしながら、来園した 5 年生に関心をもち、1 回目の交流に期待をしていた。

② 第 1 回グループ交流（7/15）小学校へ

5 つのグループに分かれ、5 年生が計画した鬼ごっこやランドセル体験、ハンカチ落とし、だるまさんが転んだなどで遊ぶ。5 年生が優しくリードしてくれたことや知っている遊びもあり、すぐに安心して関わる姿が見られた。

＊交流後、お礼の手紙を書き小学校の休み時間に届けると、5 年生が待っていてくれたことで再会を喜び合う姿が見られた。

③ 第 2 回グループ交流（9/1）小学校へ 前回と同じグループ

自分のグループや前回交流した 5 年生の顔や名前を覚えており、小学校での再会を喜んでいて。今回は、ゲームの中でリラックスして 5 年生におんぶしてもらったり、積極的に自分の気持ちを言葉で表したりしながら遊ぶ姿が多く見られた。

＊交流後、お礼に手紙ではなくビデオレターにしたいとの園児の発案を受けて話し合い、一人一人の感想を映像にして届けた。

④ 発表会に招待され参観（11/19）

幼稚園でも発表会に向けた取組をしている頃、5 年生一人一人の名前やメッセージの入った招待状をもらう。2 回の交流や 5 年生の名前を思い出し、意欲的に出かけ、器楽演奏の発表を楽しんでいた。

＊見学後、誕生日の印のリボンをつけている園児に、小学校の先生が声をかけてくれて、5 年生が全員でお祝いの歌を歌ってくれた。お礼の手紙には、自分なりに 5 年生への思いをつづり、気持ちのこもった手紙となった。

【成果】

- ・小学校という憧れの場所で 5 年生や先生方に優しく接してもらうことで、親しみの気持ちが増し、安心して喜んで関わる姿や、自分なりに気持ちを言葉で伝えようとする姿が増えた。
- ・事前に園に来てもらう、お礼の手紙を届けるなど、顔を合わせる交流場面を作っていくことで、気持ちが継続し、交流への期待が高まり、関わり方がより心のこもったものになっていた。
- ・継続して教師が互いに保育や授業を見合うことで、互いの子どもたちの成長の様子を見て話し、互いの理解を深めることができた。

【考察】

- ・教師同士の関わりが、年々深まり積み重なってきていることで、日々の連携が多様でスムーズになっているように感じる。幼小互いに限られた時間の中、互惠性のある連携の在り方について模索していきたい。



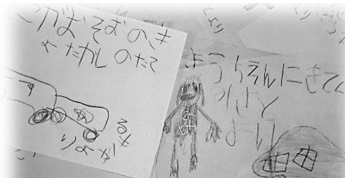
＜事前に園児の遊びを観察＞



＜ランドセルを背負ってうきうき＞



＜お礼の手紙を届けました＞



＜5 年生にあてた
心のこもったお礼の手紙＞



＜一緒に体を動かしながら
発表を見ました＞

大藤学園 もみじ台幼稚園

〒004-0014

厚別区もみじ台北5丁目6-1

【もみじの丘小学校5年生と年長児の連携】

1回目9月28日（月）、2回目1月26日（火）に交流会を行なった。1回目は、5年生が本園に来園し年長児のクラスで「猛獣狩りゲーム」「手品」「陣取りジャンケン」「フルーツバスケット」などのゲームをし、2回目は年長児が小学校へ訪問しホールで、自己紹介の後5年生の進行で「爆弾ゲーム」「大根抜き」「おちたおちた」などの交流を行った。

また、2回目は本園の年長児だけではなく、小学校近隣の幼稚園・保育園の年長児も招待されており大いに盛り上がり楽しい時間を共有することができた。

【成果】

- ・1、2回とも同じ学年で同じグループの生徒が、交流してくれたことで顔見知りになり、親近感をもって関わる姿が見られた。
- ・5年生の児童がとても頼もしく、優しかったこともあり小学校へ対する不安感が安心感に変わり、期待が膨らんだのではないかと感じた。

【考察】

- ・年2回の交流でも十分な成果は見られているが、今後の展望として小学校の行事を見学させていただいたり、校庭の雪山を借りてそり遊びをさせていただいたりと活発な交流会を目指したい。
- ・相互にとって良い取組であるため、保護者にも幼保小の連携についてしっかりと発信していきたい。

【厚別区 幼保小連携推進協議会 ブロック研修会】

前半は絵画や造形活動など、子どもの表現を中心とした交流について幼保小の先生方と意見交換をした。①絵が描けないという子に対してどのように関わっていくと良いか。②友達と一緒に、物を作ることが苦手な子に対してどのように関わっていくとよいか。2つの話し合いの柱をもとに話し合った。

後半は北海道教育大学岩見沢校の阿部宏行教授による『はじめに子どもありき 子どもの心 絵の心 先生の心』というテーマで講演会が行われた。

【成果】

- ・絵画については、「絵が描けない」子どもにどのように対応すれば良いのか悩むところではあるが、行事の絵を描く際には振り返りの時間を設ける、子どもの表現を否定しない、作品を認める、無理に描かせないなど、幼保小それぞれの取組や意見を聞く事ができ大変参考となった。
- ・講演会では、絵画についての指導法だけではなく、体の発達と絵画の関係性について、また「学ぶという事」「先生とは」などのお話しも聞くことができた。先生からの「子どもを見ている先生から、子どもが見えている先生になってほしい」という言葉は、職員の心に届き自らを振り返る良い機会となった。



もみじの丘小学校5年生と年長児の交流会の様子
“だいこんぬき”

学校法人 北邦学園 認定こども園 いちい幼稚園

〒004-0013

厚別区もみじ台西5丁目3-1

【もみじの丘小学校との連携】

- ・ 昨年から引き続き、もみじの丘小学校より交流の提案をいただき、小学5年生と、本園の年長児の交流を2度行った。
- ・ 9月には5年生が園に訪れ、自己紹介の後ゲームの進行を務めた。園児たちは、5年生が来ることを心待ちにしていたことで、事前に考えてきた5年生の遊びに積極的に参加し、小学生とたくさん触れ合いながら、楽しんでいた。



だるまさんがころんだ・
鬼ごっこ・猛獣狩りを
園で行なった様子

- ・ 1月には園児が小学校に訪れて大根抜きや爆弾ゲームなど様々なゲームを行なった。他園の園児も含めて150人以上で合同参加した。前回触れ合っていたことでこの日を楽しみにし、緊張する様子もほとんどなく楽しむことができた。また、普段行っているゲームをたくさんの友達と行ったことで普段以上にゲームが盛り上がり、とても楽しんでいた。就学先が違う学校の園児も早く学校に行きたいという声が多く、進学への期待へとつながった。

【成果】

- ・ 連携したことで小学校への不安感が和らぎ、就学への期待を高めている姿が見られた。
- ・ 個々の性格によっては内気な園児もいるため、教師自身も就学への不安もあったが、慣れ親しんだ友とみんなで行くことで、ゲームや触れ合いの際に、気持ちを伝える場面やのびのびと楽しむ姿が見られ、園児も小学校のイメージがより良くもて、就学への一歩が踏み出しやすくなったと感じた。
- ・ 卒園児が交流に来ていたため成長した姿を見ることができ、教師・保育士として喜びを感じた。
- ・ 小学校へ訪問した際には、園児が小学生の弟妹ということをきっかけに、小学生からも関わりやすくなった部分もあると感じた。

【考察】

- ・ 継続して触れ合うことで、親しみをもちやすく、就学へのイメージや期待も膨らませることができた。
- ・ 遊びや触れ合いがメインの連携となっているが、授業や生活している様子を見学しに行くなど、就学へのイメージがより膨らむような交流が続けられると良いと感じた。



認定こども園 新さっぽろ幼稚園・保育園

〒004-0032

厚別区上野幌2条3丁目6-1

【小学校の連携】

・連携の様子

小学校学習発表会・児童公開日の見学

小学校5年生と近くの公園清掃

1・2年生との交流

5年生との交流

・連携に至る経緯

毎年年長児が就学に向けて小学校訪問を行なっている。近隣の小学校から依頼を受けて公園清掃を行なっている。



・連携先との関係

就学する幼児が多い小学校

近隣の小学校

【公園清掃の様子】

5年生と年長児がペアになり、公園の清掃を一緒に行なっている様子

【成果】

- ・連携することで、年長児が就学へ期待をもち、入学を楽しみにするようになった。
- ・情報交換が密になり、子どもの育ちや保護者との関わりについて、意見交換をする機会が増えた。
- ・卒園後の児童の育ちを共有している。
- ・今年度は1学期から継続的に交流を行なうことができた。



【小学生の幼稚園訪問の様子】

小学生が幼稚園の自由遊びの時間に訪問し、幼稚園のホールで鬼ごっこを楽しむ様子。

【考察】

- ・継続することにより、小学校での取組、就学前の幼児の様子など情報交換がスムーズになり、互いに教育・保育に役立つ。
- ・前年度に小学校の一日の流れや活動を学ぶため、全職員で一日研修に参加した。研修で学んだことを、今年度の年長組のカリキュラムに生かして、新たな活動を取り入れられた。幼稚園から行なえる活動は今後も取り入れていき、スムーズな連携を目指していきたい。

札幌市立上野幌小学校

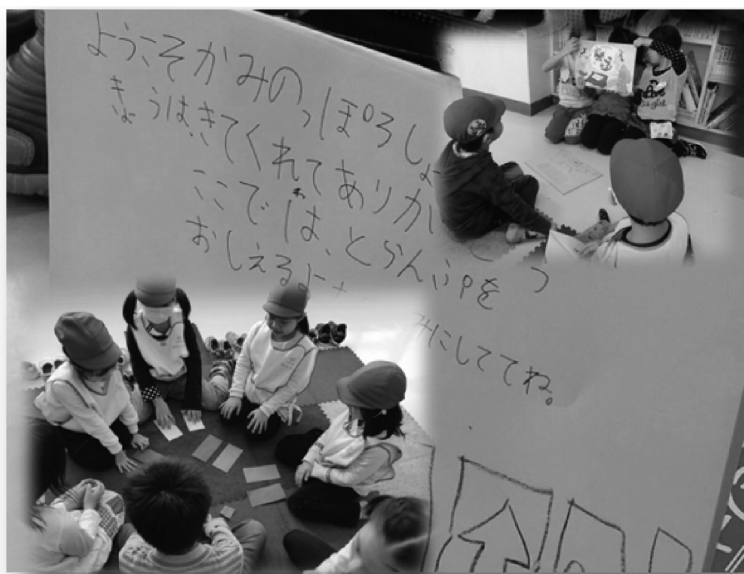
〒004-0022

厚別区厚別南 7 丁目 9 番 1 号

【幼稚園との連携】

・連携の様子

新さっぽろ幼稚園の先生方に、運動会や学習発表会等の行事に御来校いただき、児童に声かけをしていただきました。また、夏の研修では、児童の授業の参加態度の成長ぶりや教師の指導の様子を観察し、発達についての具体的な研修としていただきました。冬には園児が本校を訪問し、校舎見学その他、中休みに縦割活動を楽しむ姿を見たり、2年生児童に教えてもらったりしながら楽しく遊ぶひとときを過ごしました。



【学校訪問で2年生のもてなしを受ける園児たち】

・連携に至る経緯

校区に幼稚園がなく、特定の園との日常的な連携や交流ができにくかったのですが、平成 26 年夏の新さっぽろ幼稚園からの職員研修による交流をきっかけとして、園児の学校訪問が実現しました。今年度も、職員研修と共に、園児の学校訪問を実施しました。

・連携先との関係

本校は小規模校でありながらも、幼稚園や保育園が近隣にないため、特定の園から大半の幼児が入学するのではなく、複数の園から数名ずつ入学しています。この複数の園の中でも比較的多く、2～3割程度の入学幼児が新さっぽろ幼稚園です。幼保小連携推進協議会での交流では、こうしたつながりから、卒園児童のその後の様子や入学予定幼児についての支援に関わっての情報を積極的に交流しています。

【成果】

- ・児童、職員共に、幼稚園とのつながりが意識される良い機会となりました。
- ・低学年児童による園児の歓迎は、入学を心待ちにする心の涵養や、縦のつながりを学ぶ良い契機となっています。

【考察】

- ・2年継続できましたが、できればさらに続けていきたいと思えます。
- ・スムーズな連携のために大変効果的な取組ができたと思えます。



【1年生の授業を見学する園児たち】

札幌市立厚別北小学校

〒004-0072

厚別区厚別北3条2丁目3-1

☆本格的な幼保小の連携を進め2年目となった。今年の目標は、ステップ3「教育課程の接続」・ステップ4の「一貫性のある保育・教育活動」である。1年の連携の流れと、今年度の取組について記載します。

☆ステップ3：教育活動の接続

幼稚園の先生が見に来てくれました！



接続期の反省と検証からスタート



①はじめに、教師同士の交流を図るため小学校を訪れての参観を行い、卒園

児が学校生活をどのように送っているかを幼稚園の先生方に見ていただいた。そして放課後には1年生の先生との顔合わせと1年生になった卒園児を見ての感想をいただき接続期の反省・検証を行う。緊張感あふれる1年生の教室に幼稚園の先生が現れた安心感が児童の中に生まれる。(新1年生のスタート時の様子：昨年度からの接続)

②運動会の練習を見に来たり、ウサギ小屋の見学をしたり、夏にはプール！小学校との出会いの場をつくる。(今年度の連携のスタート！)



園長先生と泳いだよ！



③いよいよ、子どもたちの交流開始！



今年は、5年生が幼稚園に見学に行きました。慣れた幼稚園での子どもたちの様子を見られたこと、幼稚園の先生から直接話を聞いたことで具体的な課題が児童たちに生まれました。

今年は、あおば幼稚園・あつべつきた幼稚園と厚別北小学校3校同時に交流しました。まずは、体育館で御対面。自己紹介タイムをして早速グループ交流へ。交流では、新聞じゃんけんでおんぶしたり支えあったり、なぜか屋上で絵かきクイズなんてグループもありました。途中、教室によってランドセルを背負わせてあげるシーンもほほえましかったです。

最後は、5年生みんなでお見送り。この頃には幼児児童もすっかり打ち解けていました。7月6日と9月1日に2回の交流をしました。

秋 その他の取組



厚別区連携推進協議会に参加

地域公開保育参加

学習発表会にご招待

1年の成果と課題交流

成果

・連携を継続することで、教師同士の顔が見える交流になり幼児児童の安心感が増した。保護者の小学校へ不安も軽減され小学校のスタートがスムーズになってきている。

考察

・継続することにより、次の学年も次年度への見通しがもてるようになってきている。また、新たな取組として幼稚園の見学・幼稚園教諭との交流も5年生の主体的な活動へ繋がったと思われる。改善点としては幼稚園の保護者による参観日への参加率のアップが上げられる。就学時健診、1日入学等との開催時期との兼ね合いも要検討である。

札幌市立大谷地東小学校

〒004-0041

厚別区大谷地東 5 丁目 8-1

【認定こども園おおやちとの連携交流】

【入学前の学校見学】

【年長児と 5 年生との交流活動】

- ・校区の幼稚園なので、本校へ入学する幼児の割合が多く、毎年 2 月末に「学校見学」に来ていた経緯がある。
- ・幼保小連携推進協議会へ出席することで、膝を合わせて話をする機会が増え、情報交換が活発になった。
- ・今年度は、年長の園児と本校 5 年生と一緒に地域の公園のゴミ拾い（クリーン大作戦）を行い、一足早く交流を行った。



【地域の公園のゴミ拾いの様子（9 月）新一年とつながりの深くなる 5 年生と一緒に活動】



【学校見学（2 月）に来た園児が

5 年生と一緒に活動している様子】

【成果】

- ・ 2 月末の「学校見学」は継続されていることで、幼稚園と小学校の連携が深まっている。「一緒に地域のごみ拾い」をしたことで、園児と児童の関わりも深まった。
- ・ 年長の園児にとって、小学校への入学に期待と楽しみをもたせる時間となっている。

【考察】

- ・ 幼稚園との交流はより活性化させていきたいと考えている。幼保小連携推進協議会は、その下地づくりとしても良い場となっている。課題は幼稚園と小学校の活動時間の調整である。

札幌市立上野幌東小学校

〒004-0032

厚別区上野幌 2 条 4 丁目 5 - 1

【校区内の公園清掃】

本校 5 年生は、毎年春と秋の 2 回、新さっぽろ幼稚園の園児と一緒に校区内の公園清掃を行っている。公園のゴミや枯葉を集めるだけでなく、5 年生が簡単な遊びを企画し、園児と触れ合う時間も設定した。5 年生は、園児と手をつなぎ、鬼ごっこをしたり、一緒に枯葉を集めたりすることを通して、最高学年としての自分たちの姿をイメージしながら期待に胸を膨らませていた。また、小学校生活に不安を抱く園児たちも、優しいお兄さんやお姉さんと接することで、小学校生活への安心感をもつことができた。



【公園と一緒に清掃をしている様子】

【小 1 プロブレム解消のために】

毎年、本校の学習発表会には新さっぽろ幼稚園とまごころ保育園の園児が来校している。全校児童が集まる体育館にかわいらしい園児が入場すると、体育館は温かな笑顔と拍手に包まれた。40 分という長い時間にもかかわらず、真剣に劇を見る姿から、小学校生活への期待を膨らませているのが伝わってきた。



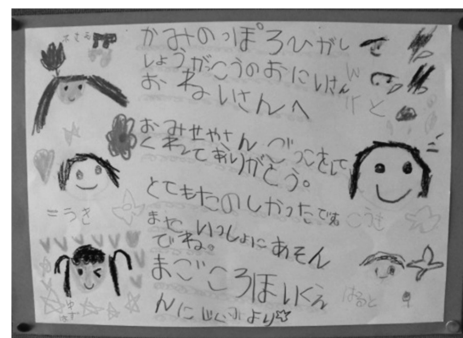
【劇を見るまごころ保育園の園児】

また、入学前には、本校の 1 年生になる園児が学校を訪問し、校内の施設や授業風景を見学する機会も作っている。校舎の広さや学校生活の様子を事前に幼稚園や保育園の教諭と見て回することで、入学への不安が減り、小学校生活への気持ちの切り替えがスムーズに行われるようになったと実感している。

【生活科の学習を通しての交流】

1 年生の生活科「なかよしハッピーランド」の学習で 12 月に新さっぽろ幼稚園の園児とまごころ保育園の園児を招待した。1 年生が体育館で「ボーリング」や「魚つり」などの自分たちで考えたお店を開き、園児たちに遊んでもらった。1 年生は、お兄さんお姉さんとして、分かりやすく説明したり、自分からやさしく声をかけたりすることを通して、上級生としての自覚が芽生えた。

また、園児たちから、お礼のお手紙が届いたことで、自分たちの活動に対しての価値をより実感していた。



【園児からのお礼のお手紙】

【成果と考察】

- ・ 小学校の児童は交流を通して、自分が上級生として新 1 年生を支えていきたいという自覚をもつことができた。園児にとっては、入学前に幼稚園や保育園と環境が違う小学校の建物に入り、小学校の児童に安心して受け入れられた経験は、幼保小接続の観点からもその意義は大きい。園児の入学への期待や喜びを大いに高めることができた。
- ・ 校区内清掃、学習発表会や生活科の学習への参加などは継続的に行ってきたので、学校の取組として定着した。職員同士が顔を合わせる機会が増え、新 1 年生の入学をよりスムーズにするための協力体制が生まれた。
- ・ 小学校職員が幼稚園に出かけたり、児童と園児が共同で作業する機会を増やしたりしながら、互いの教育方針を共通理解し、指導にも一貫性をもたせることができれば、さらに連携は深まる。

札幌市立もみじの丘小学校

〒004-0011

厚別区もみじ台東4丁目5-1

【幼稚園・保育園との連携】

◎経緯

- ・平成23年度（開校1年目）に、みづほ幼稚園が来校
- ・平成24年度、みづほ幼稚園の園児と1年生が交流
- ・平成24年度、5年生の総合的な学習の時間の取組で幼稚園・保育園との交流がスタート。

（みづほ幼稚園・もみじ台南保育園・札幌協働保育園・もみじ台幼稚園・もみじ台北保育園）

- ・平成25年度～

認定こども園いちい・みづほ幼稚園・もみじ台幼稚園・もみじ台南保育園・もみじ台北保育園と5年生「総合的な学習の時間」の取組の中で継続的に行うようになった。

また、3学期に小学校の様子を知るために園児が来校し、校内を見学。

- ・長期休業中に、小学校の職員が数名幼稚園を訪問し、幼稚園での様子を見学させてもらうことを不定期に行っている。

◎連携先との関係

校区内にある幼稚園、保育園。または卒園児が本校に入学。

【成果】

- ・本校では、6年生が入学時から1年生のお世話をする。5年生が直接園児と関わることで、お互いに顔や名前を覚えたり、5年生が小さい子に対しての関わり方を体感したりすることができる。
- ・幼児児童だけでなく、職員同士も関わりが増え、気軽に話することができる。
- ・5年生児童は、どんな活動をしたら園児が喜んでくれるか、年下の子の気持ちになって活動内容を考えている。交流を重ねるごとに、園児に対する接し方も上手になっている。

【考察】

- ・活動を重ねるごとに、児童の心の成長が見られる。自分よりも年下の幼児と触れ合うことによって、自分の成長を感じているようだ。



【↑体育館で園児と遊んでいる様子】



【直接触れ合うことでより親密に↑】